

この時期になると、枇杷の実が色づきます。食用の枇杷は江戸時代に長崎を経て伝えられた「茂木枇杷」が最初とされています。葉は生薬名を「枇杷葉」といい、主にあせもや打ち身、ねんご、暑気あたり、胃腸病に利用されます。「暑気払いの効果がある」といって「枇杷葉湯」を売り歩く姿は、江戸時代の夏の風物詩だったようです。

紅葉台



新聞

第187号

2025年

6月21日

発行人：関谷 孝

粕谷和夫の観察日記



毎月第4土曜日はジュニアクラブの野鳥観察会。コースは八王子市内を貫流する浅川の八高線鉄橋から堤防を下流に向かって長沼橋までの往復（約4km）。4月27日の参加者は家族会員10人と支援者5人。春らしく、キジ、セッカ、ウグイスがよくさえずり、ツバメの飛翔が多く観察されました。河原には菜の花が咲き、その花の所で留鳥のダイサギが



佇み、南の国から帰って来た渡り鳥のコチドリも姿を見せてくれました。三鷹市・大沢の里で「20数匹の鯉のぼりが空を舞っている」との新聞記事があったので行って見ました。ここは、野川と湧水、国分寺崖線が作り出す地形や環境が軸となった里山的な風景が美しい場所として三鷹市により整備が進められています。鯉のぼりの下には湧水を利用したワサビ田があり、深緑の葉が鮮やかなワサビが収穫期を迎えていました（写真下）。この日は野川沿いの遊歩道を下流に向かい深大寺まで約2kmを歩きました。



多摩ニュータウンに近接する緑豊かな丘陵地にある小山田緑地、来月の野鳥観察会のための下見をしてきました（4月30日）。新緑の雑木林でウグイスのさえずりが多く、キビタキ、アオゲラの声も聞こえてきました。コジュケイ（写真下）が約3m、直ぐ近くに寄って来ました。真正銘の「スミレ」が明るい草原で50株以上開花していました。「スミレ」は日本の数あるスミレのなかまの代表格としても知られ、深い紫（萼色）の花は風格があります。



4月25日狭山丘陵の野山北・六道山公園を歩いていると新葉と一緒に開花したホオノキの花に出会いました。輪生状についた葉の中央にクリーム色の大きな花を上向きに咲かせています。ホオノキの花はサクラなどと違い、一斉には咲かず、蕾・花・花後と色々な段階が見られます。そのため、1本の木の開花期間は長く、約1か月間楽しむことができます。花だけでなく、葉にも芳香があり、殺菌作用があるため食材を包んで、朴葉寿司、朴葉餅、朴葉味噌などに使われます。「ホオ」は「包」を意味し、大きな葉で食べ物などを包むことに用いたことに由来するといわれています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。



アケビと同じような実を着けるムベの花です。アケビは落葉する蔓ですが、こちらは常緑のツルです。アケビの実には自然に開きますが、ムベの実には閉じたままです。実には健康長寿の言い伝えがあり、献上された天智天皇がこの果実を食した際に「むべなるかな（いかにもその通りだ）」と言った

という話がありますね。



5月5日、多摩川の浅川合流地付近です。河原には野趣豊かなハナウドの群落が数か所あり、白い花を咲き誇っていました。多摩川の本流にはカルガモに混じりオオバンが未だ残っていて、ワンドにはバン（写真下）もいました。この場所でバンが子育てをしてくれることを期待しています。



以前配信したムサシアブミと同じ場所（片倉城跡公園隣の浅間神社境内）に開花中のホウチャクソウもありました。こちらは100株以上の群落です。花は下向きに咲き、花の形が、寺院建築物の軒先の四隅に吊り下げられた飾り（宝鐸）に似ていることから名づけられたとされています。花は地味ですが、どこか風流を感じます。山菜として若芽が食べられるアマドコロやナルコユリと非常によく似ていますが、ホウチャクソウは毒草なので注意が必要です。

高尾駅南口改札口前のツバメの巣



昨年と同じ場所にツバメが巣をつくり、子育てをしていました。今年もツバメがやって来て同じように子育てをしています。人通りの多い駅構内で巣をつくるのは、天敵（蛇や猫等）から雛を守るためと餌の虫が光に集まってくるからといひます。ツバメは人家の軒下によく巣を

作っていますが、最近の家は巣作りが出来ないような素材になり、ツバメも巣作りに苦労しています。それに糞が落ちるのを嫌がって巣を取り壊してしまったりすることもあると聞きます。

高尾駅の駅員さんの粋な計らいでしょうか。糞が落ちないように受け皿を作ってくれています。この光景を見てとても温かい気持ちになりました。

私たち人間もこの世界で生き物たちと共存していくことが大事ですね。もともとはツバメが住んでいたところに人が来て場所を奪った結果、ツバメのほうが進出されてしまったのではないのでしょうか。

「ツバメが来ると家が繁栄し幸福を呼び寄せる」と昔から言い伝えられています。このツバメも遠い国からはるばるやってきたのです。そして子育てをしてまた来年もやって来ます。ツバメがいる世界がこれからも続くよう願ってやみません。